


分野	23	地域福祉・生活の安定
施策	231	地域福祉の向上
5年後の目標	住む・働く・育むといった日常生活に必要な安心を守るため、家庭や地域の互いに支えあう力が強まっている。	

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	地域福祉活動団体支援事業		会計	款	項	目	24,450,368	社会福祉課
			一般	3	1	1		
事業の概要								
地域での支えあい・助けあいに不可欠で、地域福祉の要である民生児童委員及び社会福祉協議会、またNPO法人や民間団体などによる地域福祉活動に対し財政的支援や事業実施の支援を行います。								


平成28年度の取組							
D (取組)	指標	民間社会福祉活動振興助成金交付団体数				単位	団体
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	31	32
	11(平成26年度)	目標	10	11	12	13	14
		実績	8				
<ul style="list-style-type: none"> 民間社会福祉活動の振興を図るため、長岡京市地域福祉振興基金をもとに、地域で活動するNPO法人やボランティア団体計8団体に対して民間社会福祉活動振興助成金を交付しました。 民生児童委員に対しては、3年ごとの一斉改選にあたり、適正な地域設定及び定数(4人増員)を定めるとともに、的確な人選を行いつつ欠員なく推薦を行いました。改選にあたっては、活動がスムーズに引き継がれ、新任委員の活動開始が円滑に行われるよう支援しました。また、活動環境整備のため「自治会未組織地域等を受け持つ委員同士の課題解決を進めるための場づくり」「PR強化」「他団体や福祉専門機関との連携強化」「委員活動の仕分け」「民生児童委員同士の連携を深める場づくり」を行いました。 社会福祉協議会に対しては、必要とされる人数の市職員の派遣を行い、それに伴う財政的支援を行いました。 					子育て支援を行っているNPO主催のクリスマス会 		

施策の「5年後の目標」に対する評価				
平成28年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応員
		—	—	—
達成度合	B: 目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> 民間社会福祉活動振興助成金については、団体向け募集要項の作成や昨年度の助成事業内容をホームページで紹介することを通して制度の周知を図りました。平成25年度以降助成回数の制限をなくした結果、平成28年度の全交付団体が昨年度も同助成金を利用しており、比較的予算規模の小さい団体のボランティア活動の継続に役立てられています。 民生児童委員142人について、一斉改選後の欠員はありません。また、活動内容としても計画以上の実施をすることができ、充実した活動のための支援が行えました。 社会福祉協議会について、計画された事業を円滑に行えました。 	
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> 民間社会福祉活動振興助成金は、団体にとって活用しやすい制度となるよう要綱や制度運用を見直すことが課題となっています。また、同助成金の財源である地域福祉振興基金の減少に伴い、どのように財源を確保していくか検討が必要です。 活動の環境整備が課題となっているため、民生児童委員の資質の維持向上、定着率の向上、組織力の強化に向けての取り組みが必要です。 社会福祉協議会への市職員の派遣について、期限や費用負担の問題、指定管理料との整理が課題です。 		

目標達成に向けての次年度以降の対応	
A (行動)	対応策等
2: 進め方の改善の検討が必要	<ul style="list-style-type: none"> 民間社会福祉活動振興助成金については、利用団体の特性にあわせてより活用しやすい制度となるよう要綱改正を行い、新規団体への制度の周知を図ります。 民生児童委員協議会の会長会、役員会、各地区定例会、各部会運営を円滑に進めるとともに、課題解決に向かうための各種の事業を企画し、実施を支援します。また、平成29年は民生委員制度創設100周年のため、関連事業を行います。 社会福祉協議会の組織運営体制について、法人の自立にむけて適切な支援のあり方や改善策を市においても共に考えます。上半期をめどに方向性を定め、来年度予算に反映させます。

分野	23	地域福祉・生活の安定
施策	231	地域福祉の向上
5年後の目標	住む・働く・育むといった日常生活に必要な安心を守るため、家庭や地域の互いに支えあう力が強まっている。	

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課
	きずなと安心の地域づくり応援事業	会計	款	項	目	78,206,439	社会福祉課
		一般	3	1	8		
事業の概要							
地域の福祉課題が多様化・複雑化するなかで地域で地域を見守り、支えあう力を醸成するために、総合生活支援センターの指定管理事業に「きずなと安心の地域づくり応援事業」を加え、地域の高齢者、障がい者、児童などの見守り・生活支援を進め、地域福祉の再構築に取り組みます。							

平成28年度の取組							
D (取組)	指標	きずなと安心の地域づくり応援事業に取り組む小学校区数				単位	小学校区
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	31	32
	平成28年度新規事業	目標	2	2	4	4	5
		実績	2				
<ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉力の弱体化を防ぐ目的で、平成28年度から「きずなと安心の地域づくり応援事業(きずな事業)」を長岡京市社会福祉協議会に委託し地域支援を実施しています。 ・事業を円滑に進めるためのコーディネーターを配置しました。 ・身近なところでの関係性の構築のため、概ね小学校区を単位とし、顔の見える関係づくりを推進しました。平成28年度は、長岡第五小学校区と長岡第八小学校区で取り組みを開始し、既存事業のマニュアル作成や人が集える場所の提供及び確保について取組みました。 <p>(上記総合生活支援センター管理運営委託料、78,206,439円のうち、コーディネーター人件費として、5,583,120円を支出)</p>							

施策の「5年後の目標」に対する評価					
平成28年度の達成状況					
C (評価)	評価指標	関連する評価指標		評価指標の傾向・トレンド	対応員
		—	—		—
	達成度合	B: 目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢化に伴い、人と人のかかわりが希薄になり、地域で解決できる問題が少なくなってきました。日ごろ実施している活動や生活の中で課題と感じていることを解決するためにアイデアを出し、自治会単位や小グループではありますが、参加者の拡大や集まる場づくりなど課題解決への動きを見せています。 	
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・概ね小学校区単位での「顔の見える関係づくり」を実施していくためには、現在実施していることを波及させていく必要があります。また、自治会の無いところなどについては、地域への入っていく方やニーズの把握に時間がかかるため、地道なはたらきかけや効果的な仕掛けを積み重ねていく必要があります。 				

目標達成に向けての次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	1: 計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度に実施したことを足掛かりに、地域での課題の抽出や培ったノウハウを近隣の自治会や、小グループ、小学校区内などの地域に波及させます。また、平成30年度には4つの小学校区で取り組むことを目標としているので、今後取り組む地域で参考になるシステム構築の検討を進めます。

分野	23	地域福祉・生活の安定
施策	231	地域福祉の向上
5年後の目標	住む・働く・育むといった日常生活に必要な安心を守るため、家庭や地域の互いに支えあう力が強まっている。	

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	共生型福祉施設構想の策定		会計	款	項	目	—	福祉政策室
			—	—	—	—		
事業の概要								
公共施設の老朽化に伴う再編や本市の高齢者福祉・障がい者福祉・児童福祉の諸課題及び増大するニーズに対応するため、共生型福祉施設構想を策定します。								

平成28年度の取組								
D (取組)	指標	共生型福祉施設構想の策定					単位	—
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	31	32	
	平成28年度新規事業	目標	検討部会における構想(案)の検討	共生型福祉施設構想(案)の策定	検討部会における構想の検討	共生型福祉施設構想の策定	事業の具体化に向けた取り組み	
		実績	検討部会における構想(案)の検討					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 庁内関係部署との会議：7回実施しました。 ・ 京都府関係部署との打合せ：9回実施しました。 								

施策の「5年後の目標」に対する評価				
平成28年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁
		—	—	—
	達成度合	B: 目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 構想の元となる本市の福祉のハード面での課題や、施設整備にあたっての課題などについて、庁内及び京都府の関係部署と意見交換、イメージの共有を図りました。
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 候補地、施設の機能、スケジュールについて庁内及び京都府の関係部署と協議しながら具体化していく必要があります。 		

目標達成に向けての次年度以降の対応	
A (行動)	方向性 1: 計画通りに進めることが適当 対応策等 <ul style="list-style-type: none"> ・ 引き続き庁内及び京都府の関係部署と協議します。 ・ 候補地、施設の機能、スケジュールについて、さらに具体化していきます。 ・ 平成29年度はコンサル事業者等に調査業務を委託します。